

清水寺の二十八部衆仏像についての考察

- ① 平安時代後期の二十八部衆の仏像で1ヶ寺にまとめて残されている例は福島県での3躰が一番多く、他の例は数件しかない。
- ② 京都・三十三間堂には全て揃ったものがあるが、これは鎌倉時代のもので、時代は新しい。
- ③ 清水寺には二十八部衆のうち、26躰が当初のもので、のちに補充したものが1躰、1躰は存在しない。雷神は残っているが、風神が無いがほぼ全部揃っているものとしては日本で一番古いと思われる。
- ④ しかしながら、平安時代の仏像がこれほど多くほぼ揃っている例は全国的に見てもここだけである。
- ⑤ 佐渡市には、畑野長谷寺の十一面観音をはじめ平安時代の仏像5件が重要文化財として国の指定を受けている。これらとの関係も興味深い。

以上、東京芸術大学名誉教授・新潟県近代美術館名誉館長 水野敬三郎 氏
愛知県立芸術大学名誉教授・新潟県文化財保護審議会委員 熊田由美子 氏
仏像文化財修復工房 松岡 誠一 氏
による

二十八部衆とは

千手観音（清水寺の本尊は千手観音）の眷属けんぞくと言われる、二十八の菩薩が存在し、これに加えて「風神」、「雷神」が加わるのが通常です。